

4) 急性腎不全における感染症の検討

田崎 和之・和田 光一 (新潟大学医学部)
下条 文武・荒川 正昭 (第二内科)

〔目的〕急性腎不全症例の感染症合併について検討し若干の知見を得たので報告する。

〔方法〕昭和58年～昭和60年に経験した急性腎不全患者97例(男性72例,女性25例,年齢2～88才,平均54才)について,基礎疾患,感染部位,起炎菌等について検討した。

〔結果〕感染症の合併は71.1%にみられた。感染群の死亡率は75.4%で非感染群より高かった($P<0.1$)。透析開始前の検査成績では,CRPのみ感染群で高かった($P<0.05$)。感染症の内訳では,菌血症,肺炎,尿路感染症が多かった。菌血症の起炎菌は *S. aureus* が,肺炎では *S. aureus* が,尿路感染症では, *Y.L. Fungi* が多かった。使用された抗生物質では,第3世代を中心とする CEP 系が多かった。

〔結論〕急性腎不全患者は,一般に重篤な基礎疾患を有する Compromised host であり,耐性ブ菌や真菌,GNR の感染が多く, blood access の操作や抗生物質の選択など,十分な管理が必要と思われた。

5) 抗菌剤過敏症患者における原因薬剤の同定と β -lactam 剤の交叉性の検討

宇野 勝次(水原郷病院薬剤科)
山作房之輔(同 内科)

delayed type hypersensitivity (DTH) の成立を証明する方法の1つである leucocyte migration inhibition test (LMIT) を臨床的に応用することにより,抗菌剤過敏症患者における原因薬剤の同定を行い,更にアレルギー反応の発現頻度の最も高い薬剤である β -lactam 剤による DTH において交叉性の検討を試みた。

抗菌剤過敏症疑診患者61例に対して LMIT を実施した結果,41例(67%)に LMIT 陽性薬剤を検出した。症状別では,薬疹の場合が疑診患者51例中33例(65%)に LMIT 陽性薬剤を検出し, drug fever の場合が疑診患者15例中14例(93%)に LMIT 陽性薬剤を検出し,薬剤性肝障害の場合が疑診患者9例中8例(89%)に LMIT 陽性薬剤を検出し, anaphylactic shock 1例は LMIT 陰性を示した。薬剤別では, β -lactam 剤が他の抗菌剤に比べて圧倒的に多く, LMIT 陽性薬剤42剤中29例(69%)を占めた。

DTH における交叉性に関して,今回は3位側鎖に tetrazole 基を有する cephem 剤による過敏症患者における交叉性について検討を行った。tetrazole 基を有す

る cephem 剤過敏症患者8症例についての LMIT の結果から

1. 8症例中7例が DTH の determinant として3位側鎖に tetrazole 基を有する cephem 剤間の高率に交叉反応が成立すると考えられる。
2. 8症例中1例が DTH の determinant として7位側鎖構造が関与し,7位側鎖に類似構造を有する cephem 剤間の交叉反応も否定出来ないが,3位側鎖の tetrazole 基に比べて抗原性が弱いと考えられる。
3. 3位側鎖に methyl-tetrazolethiomethyl (MTT) 基を有する cephem 剤による DTH において,母核より分離した遊離 MTT 基が単独に抗原性を有している可能性が考えられる。

6) 感染を繰り返した原発性免疫不全症の2例とその発症原因について

庭山 昌俊・伊藤 聡
田崎 和之・五十嵐謙一 (新潟大学)
長尾政之助・森本 隆夫 (第二内科)
和田 光一・林 直樹
荒川 正昭

原発性免疫不全症の2例を経験し,その易感染性の原因を検討した。

症例1:37才,男性。小児より感染を繰り返している。発熱の為入院した。免疫グロブリン著減,細胞性免疫能の低下,腸管の結節性リンパ過形成がみられ, Hermans 症候群と診断した。易感染性は, T 細胞機能異常が背景にある液性免疫不全と考えられた。

症例2:36才,女性。25才時第1児分娩後より感染を繰り返している。発熱のため入院した。白血球増多, CRP (+) とともに免疫グロブリンの著減,細胞性免疫能の低下が認められた。しかし,好中球機能や補体系は正常であった。diphtheria toxid による抗原刺激で抗体は産生されず, Common Variable immunodeficiency と診断した。易感染性は, B 細胞の機能低下によると考えられた。H. influenzae 肺炎を合併し種々の抗生剤とグロブリン製剤を併用したが,効果なく, DIC で死亡した。

7) 脳神経疾患における呼吸器感染症

一とくに緑膿菌の関与について一

青木 信樹・関根 理 (信楽園病院内科)
薄田 芳丸・湯浅 保子

岸田 興治 (同 脳外科)

過去10年間に当院で入院治療を行なった呼吸器感染症1,236例(以下A群),その中で脳神経疾患を基礎に有す